



8月号をお届けします。6月初中旬は低温の日が多かったのですが、6月下旬から太平洋高気圧におおわれて晴天の暑い日が続き、気象庁は6月27日に「関東甲信、東海、それに九州南部が梅雨明けしたとみられる」と発表しました。関東甲信地方のこれまで最も早い梅雨明けは2018年の6月29日で、このまま確定すれば今年は過去最も早い梅雨明けとなります。しかし、7月になってからは梅雨が復活したようなぐずついた天気が続いており、例

年の梅雨末期のような豪雨に見舞われている地域も出ています。

6月25日の土曜日に所用で熊谷市を訪れました。熊谷市は日本一暑い町として有名で、2018年7月23日に国内観測史上最高の41.1℃を記録しています。6月25日も関東地方全体が酷暑に見舞われ、熊谷市の最高気温は38.4℃で全国で8番目でした。写真は熊谷市内のデパート前にある大温度計です（手動です！）。この日の全国1位は群馬県伊勢崎市の40.2℃で、6月に気温が40℃を超えるのは観測史上初めてとのことでした。東京も6月25日から7月3日まで9日間連続で最高気温35℃以上の猛暑日となり、30日には東京都心でも36.4℃の最高気温を記録しました。東京では6月の最高気温、猛暑日の連続日数が共に史上第一位の記録となりました。

6月はコロナも比較的落ち着いていたのですが、7月5日から感染者数が爆発的に急増し、東京では7月21日に3万名を突破し、過去最高となりました。全国でも7月23日には10万人を超えて、過去最高を更新し、感染拡大の第7波の到来となっています。今回の感染拡大では、今年初めから流行のオミクロン株の亜種であるBA.5変異株が多いようですが、この変異株はヒトの免疫系をすり抜けるともいわれています。行動制限の緩和により酒類の消費も上向いてきているところでの再度の感染拡大で、今後が懸念される状況です。

最近の醸造協会内の動きをいくつかお伝えします。醸造協会では例年、春から夏にかけて次の酒造年度に製造販売する「きょうかい酵母」の選抜をおこなっています。今年度の菌株選定では、一次選抜で128菌株、二次選抜で81株の小仕込みをおこない、それぞれについて一般分析、香気成分および有機酸組成の分析、香気の官能評価をおこないました。二次選抜では、内部審査員に加えて国税庁鑑定企画官および東京国税局鑑定官室長を外部審査員としてお迎えして、官能審査がおこなわれました。最終的に、分析結果と官能審査結果を総合的に勘案して、令和4酒造年度向けの酵母菌株を決定しました。また、この時期には、培養タンクや遠心分離機などの酵母製造設備の整備点検もあって、清酒製造時期に向けての酵母製造のための準備が進められています。

6月23日には、醸造協会の最高議決機関である評議員会が一つ橋の如水会館において久しぶりの対面方式でおこなわれました。議案として、令和3年度の事業報告及び同計算書類等、辞任する理事の後任の選任、定款の一部変更などが審議されました。令和3年度の事業の概要について紹介しますと、酵母事業は数量でこそ前年度に比べ若干のプラスとなりましたが、金額ベースではコロナ禍による前年度の落ち込みからあまり回復していません。しかし、前年度はコロナ禍によりほとんど中止であった各種セミナー事業がオンラインで開催されたことや、新規出版の「ワイン醸造技術」の販売好調などが寄与して、法人の正味財産は前年度よりプラスとなることができました。評議員会及び同時開催の理事会の議事の概要および令和3年度の事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書につきましては、7月号の会報に掲載されています。

